

Title	欧州言語共通参照枠に準拠した英語プレイスメントテストの開発
Sub Title	Developing an English placement test based on the CEFR
Author	中村, 優治(Nakamura, Yuji)
Publisher	
Publication year	2016
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2015.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究はCEFR(欧州言語共通参照枠)に準拠した英語プレイスメントテストの開発を行い、その相乗効果により教育、測定、学習の向上を目指すことを目的とした。テスト開発は循環作業であるという基本的立場から、テストの手順を構想→開発→実施→検証→再開発と考え、テストの開発サイクルを通してテストの質を徹底的に検証しテストの妥当性を追求した。確定されたプレイスメントテスト4つのバージョンを使用して、能力別クラス編成のためのテストRPTを実施し、読解力の分野のデータ分析をおこない、さらに読解分野、及び総合理解、文法、語彙の各分野についての問題、設問、難易度設定など詳細な分析をおこなった。</p> <p>The recent project dealt with the test development analysis and the test data analysis longitudinally, quantitatively, and qualitatively. The analysis was conducted in terms of the CEFR idea as well as the testing cycle idea. The data was mainly collected through a university placement test format. For the reading section, the results indicate that there are both easy and difficult test items among three genres : humanities, social sciences and natural sciences. The way of presenting the test questions or choices, or the content of the test items (e.g. factual, inferential, discursual, grammatical ability, or the ability to draw conclusions) will determine the difficulty.</p>
Notes	研究種目：基盤研究(C)(一般) 研究期間：2012～2015 課題番号：24520646 研究分野：言語テスト論
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_24520646seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520646

研究課題名(和文) 欧州言語共通参照枠に準拠した英語プレイスメントテストの開発

研究課題名(英文) Developing an English Placement Test based on the CEFR

研究代表者

中村 優治 (NAKAMURA, Yuji)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：40249074

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はCEFR(欧州言語共通参照枠)に準拠した英語プレイスメントテストの開発を行い、その相乗効果により教育、測定、学習の向上を目指すことを目的とした。テスト開発は循環作業であるという基本的立場から、テストの手順を構想、開発、実施、検証、再開発と考え、テストの開発サイクルを通してテストの質を徹底的に検証しテストの妥当性を追求した。確定されたプレイスメントテスト4つのバージョンを使用して、能力別クラス編成のためのテストRPTを実施し、読解力の分野のデータ分析をおこない、さらに読解分野、及び総合理解、文法、語彙の各分野についての問題、設問、難易度設定など詳細な分析をおこなった。

研究成果の概要(英文)：The recent project dealt with the test development analysis and the test data analysis longitudinally, quantitatively, and qualitatively. The analysis was conducted in terms of the CEFR idea as well as the testing cycle idea. The data was mainly collected through a university placement test format.

For the reading section, the results indicate that there are both easy and difficult test items among three genres: humanities, social sciences and natural sciences. The way of presenting the test questions or choices, or the content of the test items (e.g. factual, inferential, discursal, grammatical ability, or the ability to draw conclusions) will determine the difficulty.

研究分野：言語テスト論

キーワード：プレイスメントテスト CEFR テスティングサイクル 読解力 能力別クラス編成 IRT

1. 研究開始当初の背景

国際社会のグローバル化にともない、世界的に活躍する人材育成の場としての大学教育の役割は大きい。その一旦を担う英語教育の分野では、コミュニケーション能力の養成が重視されがちであるが、AO 入試、推薦入試など学力をあまりにも多面的に捉えたために、学生の真の学力が測定されないままの状態での入学、あるいは高校までの学力を十分に習得しない状態での入学がみられ、学生の学力低下に伴う教養課程における英語力の土台となる読解力の低下が著しい。その結果、専門課程においても、さまざまな教育上の弊害が生じている。このため大学教育の水準を維持する上でも、また読解力養成の必要性からも読解力を基礎とした英語教育改革、とりわけ各教育機関にふさわしい新入生の英語学力を測定するプレースメントテスト作成への期待は大きい。

慶應義塾大学文学部の英語教育カリキュラムの目的は学生の読解力の強化であるが、これに対応するために、学生の能力と目的に応じた実際的なカリキュラム構成を考え、独自のプレースメントテスト (KEPT) の開発を進め、それに基づく能力別クラス編成による英語教育システムの開発に着手した。言語テストの社会的開発経緯と言語テストの意味は最近最も注目されており、社会の変化に対して責任をもっている学校組織が、社会のニーズの変化に対応し、テストの開発サイクルを通して、テストの質を検証し、データを集積していけば受験者に対し限りなく公平なテストが提供できると考えられる。

2. 研究の目的

本研究は CEFR (欧州言語共通参照枠) に準拠した英語プレースメントテストの開発を行い、その相乗効果により教育、測定、学習の向上を目指すことを目的とした。テスト開発は循環作業であるという基本的立場から、テストングの手順を構想 開発 実施 検証 再開発と考え、テストの開発サイクルを通してテストの質を徹底的に検証しテストの妥当性を追求した。英語学力には読解力は不可欠であるが、この能力向上を第一目標として、テスト開発を行い、それをもとにした能力別クラス編成に基づくカリキュラム開発も同時にすすめる、学生のみならず教員も実りある英語の授業が展開できるようにすることを第一の目標とした。

3. 研究の方法

研究初年度からプレースメントテスト 4 つのバージョンを実施し、因子分析法などにより英語力・読解力の構成要素を検証した。2 年目には語彙、文法のレベル別の記述と CEFR の基準比較を行った。文法は 8 品詞を中心に分類し、語彙は JACET 8 0 0 0 の分類表に従った。3 年目には読解能力に関するレベル別の記述と CEFR の基準比較を行った。最

終年度は cloze テストの内容及び受験者のテスト反応について検証を行った。初年度から終了年度まで言語テスト関係の学会において形式方法を問わず発表し、また、所属大学においては毎年フォーラムを開催することにより、研究の進捗状況・成果を報告した。

4. 研究成果

テストづくりが循環 (テストングサイクル) であることの意識を教員がもつことができたことの意義は大きい。テスト問題の再利用ということよりもテストは時代、社会の変化とともに常に変化しながらその妥当性を追求していくことの意識をうえ付けることができた。

テストをテストが関係する社会 (テスト作成者、受験者、教育者、学校) の視点から捉え、国際的に叫ばれているテストの社会への impact をヨーロッパ参照枠 (CEFR) の 3 つの視点 (教育、学習、評価) を踏まえて部分的にはあるが検証できた点は意義深いものであったといえる。

全 500 項目を IRT により等化しテスト項目としてコーパス化することで活用範囲が広くなり客観的な数値基準に基づき、文学部の学生の英語読解力を測定し、長期的なスパンでの読解力の変化を経年的に示すことができたことも意義深い。

本研究により文法力、語彙力のレベル別記述もできること方向性が見えたこと考えられる。読解力問題文、総合理解問題文、語彙問題、文法問題、それぞれを詳細に難易度別に分析できたことの意義は大きい。

またテスト作成、問題検討、テスト結果分析を共同作業で進めることにより、教員間で英語教育に関する活発な意見交換を行い、科学的な分析手法についてあらたな知見を得る機会にもなった。さらには、本研究グループが主催するシンポジウムなどにおいて、文学部の英語教育方針や取り組み、成果について、客観的なデータをもとに広く説明することができ、こうした一連の活動が、英語教員による FD へと結びつくことになったと考えられる。

研究協力者は読解力養成という共通の目標を持ちながら専門分野は異なっていた。この共通性、異質性を利用することにより幅広い読解資料、教材の確保と同時に学生に必要な共通能力の追及ができたと考えられる。

今回の研究は言語教育、言語テストの面からのみでなく、教育測定・評価の観点からも重要な意味をもち、文学部の各専門分野の教員が読解力育成に向かって共同で研究し、指導及び評価に結びつけようとしたところに成果があったと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

. A Longitudinal Study of Second Language Grammar Knowledge Assessment and the Feasibility of Utilizing the CEFR Levels 2015 年 3 月 ICU 教育研究 vol.57 pp.189-200. 国際基督教大学教育研究所 (査読あり) Nakamura, Yuji

. A Longitudinal Analysis of Students' Vocabulary Knowledge and the Feasibility of Using CEFR Levels for a Placement Test Nakamura, Yuji and Murray, Adam 2014 年 12 月慶応義塾大学日吉紀要 No.46, pp.31-42. Keio University. (査読なし)

. Nakamura, Yuji and Murray, Adam (2014) "Analysis of Placement (Reading) Tests Results: Readability Statistics, Test Contents and Test Takers' Performance" Pan Pacific Association of Applied Linguistics (PAAL) Proceedings, pp.59-60. (査読あり) 2014 年 9 月

〔学会発表〕(計 15 件)

. Cloze Tests in Terms of Readability and Test Item Content Yuji Nakamura (Keio University) Adam Murray (Miyazaki International College), Kazunari Shimada (Takasaki University of Health and Welfare) December 5-6, 2015 College of Liberal Arts, Korea University, Seoul, KOREA

. A comparison of equating method based on IRT model for the placement test of EFL course The Pacific Rim Objective Measurement Symposium (PROMS) 2015 in ,Hakata, Fukuoka (Kyushu Sangyou University) August 20-August 24, 2015. Yuji Nakamura and Haruhiko Mitsunaga

. Cloze Tests for the Assessment of Reading Ability: Text Readability, Item Analysis and Test Takers' Performance 共同研究発表 (Yuji Nakamura, Adam Murray, Kazunari Shimada) KATE (関東甲信越英語教育学会) 2015 年 8 月 8 日帝京科学大学 山梨県上野原市

. Analysis of Text Readability and Item Categorization in Placement Tests (共同研究発表) (Yuji Nakamura, Adam Murray, Kazunari Shimada) JACET (大学英語教育学会) 関東支部大会 (青山学院大学) 2015 年 7 月 12 日 東京 渋谷区

. Students' Reading Ability and Text Readability in Placement Tests 共同研究発表 (Yuji Nakamura, Adam Murray, Kazunari Shimada) KASELE (九州英語教育学会) 2014 年 12 月 6 日大分大学 大分県大分市

. Analysis of Placement Tests JALT 2014 Tsukuba 全国語学教育学会国際大会 (共同研究発表: Yuji Nakamura, Adam Murray, Kazunari Shimada) 2014 年 11 月 24

日 つくば国際会議場 茨城県つくば市

. "Analysis of Placement (Reading) Tests Results: Readability Statistics, Test Contents and Test Takers' Performance" Nakamura, Yuji and Murray, Adam 2014 年 8 月 19 日 Pan Pacific Association of Applied Linguistics (PAAL) in Waseda University, Waseda, Tokyo.

. Nakamura, Yuji, Murray, Adam and Shimada, Kazunari and Mitsunga, Haruhiko (2014 August) "A Longitudinal Study of L2 Grammar and Vocabulary Assessment and CEFR Applicability" AILA 2014, August 11 in Brisbane, Australia.

. A Longitudinal Analysis of Students' Vocabulary and Grammar Knowledge in Terms of the CEFR Levels (PT) 共同研究発表 (Yuji Nakamura, Adam Murray, Kazunari Shimada) JACET (大学英語教育学会) 関東支部大会 (青山学院大学) 2014 年 6 月 29 日東京 渋谷区

. Longitudinal Study of Second Language Grammar Knowledge Assessment 共同研究発表 (Yuji Nakamura, Adam Murray, Kazunari Shimada) KASELE (九州英語教育学会) 2013 年 11 月 30 日佐賀大学佐賀県佐賀市

. A Study of L2 Grammar and Vocabulary Assessment 共同研究発表 (Yuji Nakamura, Adam Murray, Kazunari Shimada) JALT (全国語学教育学会) 2013 年 10 月 27 日神戸 (神戸コンベンションセンター)

. A Longitudinal Analysis of Students' Vocabulary Knowledge and the Feasibility of Using CEFR Levels for a Placement Test (PT) 共同研究発表 (Yuji Nakamura, Adam Murray) JACET (大学英語教育学会) 関東支部大会 (青山学院大学) 東京 渋谷区 2013 年 6 月 16 日

. Longitudinal L2 vocabulary assessment 共同研究発表 (Yuji Nakamura, Adam Murray) KASELE (九州英語教育学会) 2012 年 12 月 8 日長崎外国語大学 長崎県長崎市

. L2 vocabulary assessment 共同研究発表 (Yuji Nakamura, Adam Murray) JALT (全国語学教育学会) 静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ 2012 年 11 月 2 日静岡県静岡市

. Second Language vocabulary Assessment 2012 年 8 月 21 日 PAAL (環太平洋応用言語学会) in Beijing, China 共同発表 (Nakamura, Yuji and Murray, Adam, Mitsunaga Haruhiko)

〔図書〕(計 2 件)

. 欧州言語共通参照枠に準拠した英語ブレイスメントテストの開発 Developing an English Placement Test based on the CEFR 平成 24 ~ 27 年度 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) 研究課題番号 24520646 研究成果報告書 (154 頁) (研究代表: 中村優治代表) 平成 28 年 (2016 年) 3 月慶応義塾大学出版会

・科研費報告書平成 24 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究C研究実績中間報告書「欧州言語共通参照枠に準拠した英語プレイスメントテストの開発」 課題番号(24520646)(中村優治代表)(100頁).平成 25 年(2013 年)3 月 慶應義塾大学出版会

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

中村 優治 (NAKAMURA, Yuji)
慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：40249074

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：